

介護保険事業計画に記載した「自立支援、介護予防又は重度化防止に関する取組と目標」
(令和7年度)報告様式

茨城県稲敷郡美浦村

1 在宅医療・介護の支援

【目標を設定するに至った現状と課題】

アンケート調査から、多くの方が医療や介護が必要な状態になっても自宅で生活したいと考えており、在宅での医療・介護を希望する方を支援するため、住民への啓発と医療機関や介護保険事業者との関係づくりなど、在宅医療・介護連携を進めていく必要がある。

【設定した主な取組及び目標・実績】※ 可能な限り数値目標をあわせて記載してください。

【取組】 県や県・郡医師会、近隣市町村、介護保険事業者等との情報共有や連携を通じ、支援提供体制の充実を図る。

【目標】 在宅医療・介護連携事業の推進

【実績】 在宅医療・介護連携推進協議会 1回、郡医師会内市町村会議 1回、多職種連携会議 1回、住民向け講演会1回

【取組により得られた効果(アウトカム)または今後期待される効果】

ケース会議や関係者間との会議等を通じ、ネットワークづくりや地域課題の共有等の効果があった。

【自己評価及び今後の方針】※5段階で評価(S・A・B・C・D)

自己評価 | A

評価理由: 計画通り事業を実施することができたためA評価とした。

今後の方針: 今後も他の施策との連携を図りながら、包括的な在宅医療・介護の提供を推進する。

2 地域包括ケアシステムの構築

【目標を設定するに至った現状と課題】

高齢化の進行に伴う様々な問題に対応していくため、包括的・継続的ケアマネジメントを行い、地域包括ケアの実現と個別支援を併せて、地域全体の支援体制の整備を図る必要がある。

【設定した主な取組及び目標・実績】※ 可能な限り数値目標をあわせて記載してください。

【取組】 地域包括支援ネットワークの構築と地域課題からの地域づくりによる高齢者の尊厳のある主体的な生活を実現できることを目指して、地域ケア個別会議ケース検討会議を実施する。

【目標】 地域ケア個別会議: R6年度 7回、R7年度 7回、R8年度 7回

【実績】 地域ケア個別会議は6回開催し、12職種29名の参加で、7事例の検討を実施。

【取組により得られた効果(アウトカム)または今後期待される効果】

多職種参加による個別ケースの検討を通じ、地域課題の共有と検討、関係者のネットワーク、支援者のスキルアップ等の効果があった。

【自己評価及び今後の方針】※5段階で評価(S・A・B・C・D)

自己評価 | B

評価理由: 概ね予定通り開催できたためB評価とした。

今後の方針: 今後も多職種参加による事例検討や会議、研修会等の実施を通じ、利用者本位の介護サービスの充実を図っていく。介護支援専門員が事例を会議に上げやすいよう、資料の簡素化、日頃の相談しやすい関係づくりに努める。

3 認知症対策の強化

【目標を設定するに至った現状と課題】

高齢化の進行に伴う認知症高齢者の増加に対応し、認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で暮らしつづけることができる社会の実現を目指した取り組みを推進していく必要がある。

【設定した主な取組及び目標・実績】 ※ 可能な限り数値目標をあわせて記載してください。

【取組】

- ① 認知症の理解促進を目的とした「認知症サポーター養成講座」の開催
- ② 住民主導で立ち上がった「認知症カフェ」の充実

【目標】

- ① 認知症サポーター養成数: R6年度 30名、R7年度 30名、R8年度 30名
- ② 認知症カフェ参加者数: R6年度 180名、R7年度 180名、R8年度 180名

【実績】

- ① 認知症サポーター養成講座: 1回、20名養成
- ② 認知症カフェ: 12回、延べ104名参加

【取組により得られた効果(アウトカム)または今後期待される効果】

認知症サポーター養成講座については、オレンジカフェに参加する住民とボランティアを対象に実施。認知症に関心がある方を対象に実施しており、認知症に対する理解をより深められた。住民向けは参加人数が減少しているが、関心を持って学びたいという声があるため少人数でも継続して行っていく。認知症サポーターが認知症カフェのスタッフとして活動できるよう検討していく。住民主導で立ち上がった認知症カフェについては計画通り開催し、参加者は横ばい。住民主体の活動として定着してきている。

【自己評価及び今後の方針】※5段階で評価(S・A・B・C・D)

自己評価 B

評価理由: オレンジカフェの参加者数、サポーター養成講座はおおよそ目標値のおおよそ6割ではあったが、参加者の意向を汲み取った形の住民主体で行っており充実した事業となっているためB評価とした。
 今後の方針: 今後も多様な世代や地域の企業等に向けて講座を開催し、認知症サポーター等を活用した地域づくりを推進していく。

4 高齢者の能力活用と就労支援

【目標を設定するに至った現状と課題】

高齢者の豊かな経験と知識・技術を生かし、働くことを通じて「社会参加」や「生きがいの増進」に寄与することを目的として、就労を希望する概ね60歳以上の人にシルバー人材センターでの就労を紹介している。シルバー人材センターの会員登録数は横ばいだが公共、民間、個人からの依頼は増えており目標値を上回っている。

【設定した主な取組及び目標・実績】 ※ 可能な限り数値目標をあわせて記載してください。

【取組】高齢者が主体的に生きがいを感じながら社会活動に参加できるよう、個々の意欲や能力に応じた就労支援と活動の場の提供に努める。

【目標項目】

	目標数値	実績値	達成率(%)
・シルバー人材センターの登録会員数(人)	156	155	99.3
・シルバー人材センターの受託件数(件)	1,000	1312	131.2

【取組により得られた効果(アウトカム)または今後期待される効果】

シルバー人材センターの有効活用により、元気高齢者の活躍に向けた取組を推進する。

【自己評価及び今後の方針】※5段階で評価(S・A・B・C・D)

自己評価 A

評価理由: シルバー人材センターの登録会員数、受託件数共に減少傾向にあるが、達成率が9割を超えているためA評価とした。
 今後の方針: シルバー人材センターの登録・活用について、周知広報等の促進を図る。

5 人生百年時代を見据えた健康づくり

【目標を設定するに至った現状と課題】

本村の将来推計人口は減少傾向にあるものの、高齢化率の増加に伴い、要支援・要介護認定者数の増加が見込まれている。介護保険事業計画推進委員会や地域ケア個別ケース検討会議等により、関係機関や地域ボランティア等と連携しながら、より効果的な介護予防や社会参加の推進を図る必要がある。

【設定した主な取組及び目標・実績】※ 可能な限り数値目標をあわせて記載してください。

【取組】

- ①住民運営の通いの場を充実・拡大していくような地域づくりを推進するため、シルバーリハビリ体操指導士を養成し、通いの場等の拡充を図る。
- ②短期集中型通所サービス拡充に向けた検討を事業所と行う。

【目標】

- ①シルバーリハビリ体操指導士登録数：R6年度 34名、R7年度 34名、R8年度 38名
- ②リハビリテーションの理念を踏まえた介護予防の推進

【実績】

- ①R7年度末の指導士登録者数：31人
- ②リハビリテーション専門職が関与する地域ケア個別ケース検討会議：1事例実施

【取組により得られた効果（アウトカム）または今後期待される効果】

- ①養成されたシルバーリハビリ体操指導士が、地域の介護予防の担い手として活動の場を充実・拡大し、地域で支え合う体制づくりが進められている。
- ②通所サービスの在り方について、リハビリテーション職を含めた関係者との検討を通じ、介護予防の効果や地域課題について共有することができている。

【自己評価及び今後の方針】※5段階で評価（S・A・B・C・D）

自己評価 B

評価理由：本村のリハビリテーションの課題を共有し、介護予防サービスの場を維持できておりB評価とした。

今後の方針：住民運営の通いの場を充実させ、身近に参加できる場があることで気軽に参加し人と人のつながりが継続的に拡大していくような地域づくりを推進する。

6 その他

【目標を設定するに至った現状と課題】

本村の高齢化率は、平成27年に国県を上回り、介護保険事業の運営の安定化をより一層図る必要がある。健全な給付の実施のため、ケアプランが‘自立支援・重度化防止’に資する適切なものになっているかをケアマネジャーとともに検証していくこととした。

【設定した主な取組及び目標・実績】※ 可能な限り数値目標をあわせて記載してください。

【取組】ケアプラン点検及びケアマネジャー研修会

【目標】ケアプラン点検及び研修会を行い、ケアプランの検証を行い、自立支援・重度化防止、介護給付費の適正化、ケアマネジメントの向上を図る。R6年度 6回、R7年度 6回、R8年度 6回

【実績】・ケアプラン点検 3回 ・多職種研修会 2回

【取組により得られた効果（アウトカム）または今後期待される効果】

令和7年度は、前年度に引き続き介護支援専門員のケアプラン点検に加え、スーパービジョン力の獲得も目的とした研修会を実施。講義だけでなく、介護支援専門員同士がスーパーバイザーを体験しながらスーパービジョンを学ぶことができた。

【自己評価及び今後の方針】※5段階で評価（S・A・B・C・D）

自己評価 B

評価理由：報酬改定に関する研修会及びケアプラン点検を行った。介護支援専門員同士によるスーパービジョンを行う仕組みが作られ、概ね目標を達成している。

今後の方針：今後も介護支援専門員同士による質の向上の促進と、多職種が参加する事例検討や研修会等の実施を通じ、地域全体のケアマネジメントの向上を推進していく。